

## 第4回兵庫県地域創生戦略会議企画委員会議事概要

日時：令和元年 11 月 29 日（金） 15:00～17:00

場所：兵庫県民会館 7 階 鶴の間

（委員）

- ・前回までの会議を経て、事務局で次期地域創生戦略の素案を作って頂いた。前回は行政区によらない区域区分という話があった。対応するかたちで、地域の多様性を活かすということが、地域別プロジェクトとして整理頂いた。また、「ライフステージの中での多様な働き方」などの重要な指摘が反映されている。企業に働きかける、という視点や結婚に重点をおく、そんな議論もあったと思う。そういったことを踏まえて素案を作ってもらった。
- ・本日の論点は、戦略の基本理念と K P I について。前半は理念、後半は K P I について話し合う。県民の心に響く戦略を作りたい。
- ・まずは基本理念（資料 1 の 8 ページについて）意見があれば挙手をお願いします。

（委員）

- ・理念には「多様な価値観」が含まれると良い。宝塚市は L G B T の結婚を認めているが、かたちではなく「価値観が受け入れられる」という心が持つ多様性も重要。

（委員）

- ・地域創生を実現する中に、「多様な価値観」が含まれると良い。

（委員）

- ・含まれることもそうだが、受け入れられることが必要だと感じる。色々な選択肢を許容する社会であることが魅力になると思う。

（委員）

- ・大まかな構成は「one for all」「all for one」という感じがする。
- ・ただ、「自分たちがわかっているから書いていない」ことがある。新しく来た人が「ポテンシャルを活かせる」ということが大切。KPI もどうやって繋がったかが重要。県民に「自分たちでもできるんだ」「やっていいんだ」と思わせるような理念がよい。
- ・「課題」が多いが人口が減ることによって出てきた「強み」（例えば土地が出てきた）などをもっと書いたら良いのではないか。

（委員）

- ・主体的にやっていけることを示せることが大切。
- ・関連するが、「私が輝く」というと一人のことをいうイメージがある。「私も輝く」の方が良いのではないか。色々なポテンシャルを繋いでいくことが大切なのは。「私も輝くし、私に関係する他の人も、地域も輝く」。広いイメージでとらえられ

ないか。メッセージ的に弱くなるかもしれないが。

(委員)

- ・「私も輝く」となると、既に輝いている人がいるかどうかだ。いないんだったら「私が」の方が良い。ただ、「も」の方がチーム感があるような気はする。
- ・全体的に「誰かがやってくれる」という感じがあるのでそれはあまり良くない。
- ・例えば「豊かな社会が形成される」という部分で「形成される」ではなく「出来る！」の方が良い。私たちがするんだ、と。「される」だと自然にやってもらえる感じがする。
- ・「人口の社会増や自然増につなげていくことを目指していく」については、「つなげていく」で終わる方が良い。
- ・「一人ひとりが望む働き方や暮らしが実現できる」のところでも「実現する」方が良いのかなと。
- ・ここだけではなく、全体で意識されていない可能性がある。意識してチェックする必要がある。

(委員)

- ・中小企業の研究をしているが、一般的によく言われる経営理念に近い考え方になると思う。社長が定めた経営理念であれば、従業員とともに共有する価値観、その後に行動規範を示すということになる。経営理念に置き換えると「誰が理念を作って誰に向けて言っているのか」ぼやけてしまう印象がある。それで主体性が薄れているのかもしれない。経営理念も、浸透させてこそ社員の行動を変えることに繋がる。
- ・若者の力を活かしたい、若者が帰ってくる兵庫県をつくりたい、ということを考えると、若者に元気や希望が与えられるイメージをもう少し強調したい。
- ・「私が輝く」というのは誰なのか。「誰が」つくるのか、県民には伝わりにくい。

(委員)

- ・「一人ひとりが望む働き方」の部分で文章の中に「働く」ということが見えない。
- ・働き方改革のターゲットで一番多いはずの、壮年層の男性が置いてけぼりになっている。多様な働き方と言っているにもかかわらず、男性は変わる感じがしない。女性の就業促進のためには男性の意識も変わらなければならない。男性も「仕事も家庭も両立する」というニュアンスを含めた方が良い。

(委員)

- ・若者向けという部分では「挑戦」とか、「新しい価値」のキーワードがあっても良いと思った。
- ・「つくる」の主語が誰なのかが重要。主語が「私」なら、それがハッキリ分かる方が良いのではないか。

(委員)

- ・若者や子どもに伝わる言葉でつくる必要がある。そうすることで、多様な価値観

が生まれる。

- ・「つくる」の主語については「伝えやすいかたちにする」ことが重要。

(事務局)

- ・だいたい行政では「誰もが輝くふるさと兵庫をつくる」となるため、あえて「私」を入れることで「自分たちが輝く兵庫をつくるんだ」ということを戦略にニュアンスとして取り入れたかった。「つくる」についてはあえて主語を抜いているが、子供たちをイメージしている。「自分たちが頑張ればこんな兵庫が出来るんだ」「兵庫はこんないいところがあるんだ」とわかって頂ける。主語に幅広く選択肢があることで、「誰でも輝く兵庫をつくる」という意味合いを持たせたかった。わかりにくいのは、確かなので検討する。

(委員)

- ・振り返ると、「誰かが」ではなく、「自分たちが」という主語、ニュアンスをきちんと出すべきだ。
- ・対象を考えた時に、若者や子どもに伝わる必要がある。
- ・多様な価値観を受け入れること。
- ・また、多様な価値観を考えた時に、単なる「強み」だけではなく、潜在的にある可能性をいかにつないでいけるか。「出来る」ということを若い世代に思ってもらいたい。
- ・「働く」ということを理念の中に示していく。特に、女性だけでなく男性もだ。
- ・「挑戦」や「新しい価値」というキーワードを組み込めば、若者に伝わりやすいのではないか。
- ・「私が輝く」から、「私も輝く」への変更も、検討してもらえれば。

(委員)

- ・今まであった会議の想いが盛り込まれるのは良いが、こうなるとインパクトが薄れてしまう。果たしてこれを誰が読むのか。自発的に読むのか。例えば、小学生や子どもしか読まないかたちで出すのも一つではないか。また、子どもたちだけに焦点を絞った書き方で、それが正式文章になる、など。出し方、見せ方は重要。

(委員)

- ・どういう媒体でどんな風に表現して伝えるか、ということ意識する必要がある。
- ・子供が分かれば、大人もわかりやすい。

(委員)

- ・子供に伝えようとしたら、例えば「人口減っていますよ」とは言わない。裏返して無理してでもプラスに言うことが出来ると思う。「土地が広いですよ」というだろう。日本の報告書というのはいつも後に良いところを持ってくるため課題を前置しがち。もっと可能性から考えることが重要。

(委員)

- ・こういった報告書の伝え方ではいつもそんな話はある。例えば、漫画バージョンを作ったり、プレゼンに使ってもらえるようにスライドにしてダウンロードしてもらえようにする、など。どういう利用形態があるのかを想定することが大切。

(委員)

- ・様々な可能性から説き起こすことも大切だ。
- ・動画もいいかもしれない。
- ・続いて、K P Iについて話し合いたい。戦略目標は大きく分けて4つあった。I～IVについて、順番に話し合いあいたいと思う。

(委員)

- ・質問だが、地域プロジェクトにも個々にK P Iがあるが、全体のK P Iとはどう関連性があるのか。

(事務局)

- ・今議論して頂こうと思っているのは、全県的な指標の方だ。地域プロジェクトは横断的なプロジェクトとなっており、これで地域の指標を見る。
- ・地域プロジェクトの指標が達成すると全体のK P Iである地域の豊かさに繋がるイメージだが、まだ検討中である。

(委員)

- ・社会増の部分で、男性の働き方に触れていない。子育てのところだけではなく、多様な人材のところにも、男性のWLBに関する指標が欲しい。
- ・あと、女性の就業率は非常に難しい。未婚・既婚や年齢別に分けて数字を上げないと意味がない。
- ・社会増の面で、防災・減災対策では「女性が輝く」という意味を込めて防災委員の女性の委員数も入れた方が良い。
- ・自然増対策で、結婚や子育てでは女性の話がメインになりがち。男性の育児参加の時間や比率の指標も必要ではないか。
- ・高齢者の有業率は65～75歳未満など、年齢を区切った方が良い。
- ・「ライフステージに応じた多様な働き方」というフレーズは良いのだが、何も知らない人を見ると「結婚するまでは働いて、子育てで一回辞めてあとはパートで働く」という一昔前のことを想定されているように感じる。そうではなく、「ずっと第一線で戦力として働く」というニュアンスがあれば良い。

(委員)

- ・振り返ると、男性のワークライフバランスを、多様な人材の活躍として一つの指標にしてはどうか。
- ・女性の就業率について、年齢別、既婚・未婚などの分類分けが必要ではないか。
- ・多様なライフステージばかり見ていると、「第一線で働き続ける」ことが疎かに

なる可能性がある。

- ・防災面においては防災委員の女性の数、それを指標にするべきではないか。
- ・女性がずっと第一線で働き続けることができること、も強調した方が良い。
- ・社会増対策でご提案頂いた。それに対して、何か他にあるか。男性の育児参加についての指標は項目としても多様な人材の箇所へ移すのがいいのではないか。
- ・事務局から聞きたい内容として二点あった。戦略指標の中の定性指標「ゆたかな暮らし」の指標のはかり方について何かいい案がないかということと、その下の多様な人材の活躍推進の部分で外国人材の受入数というのをどう評価すべきか、どういう数を取ればよいのか。それについて意見がないか。

(委員)

- ・外国人材の「人材」とは誰のことをいうのか。留学生なのか、実習生なのか。それぞれタイプがまったく異なると思う。企業の受け入れ体制も変わってくるし、タイプ別に指標をもうける必要がある。
- ・ただし、法律も変わっていく中で、必ずしも明視することが良いことでは無いとも思われる。

(委員)

- ・指標としては難しいかもしれない。

(委員)

- ・外国人もそうだし、女性も障害者もそうだが、増やしていこうとする企業はたくさんあると思うが、採用の段階と定着のステージは全く違うため、それぞれに対する支援のあり方が必要。

(委員)

- ・外国人受入れの指標は難しい。フランスでは、納税者という項目があったりする。
- ・「自分らしく働ける兵庫をつくる」という部分で当然男性も、ということになると思うんですけども、マイノリティ、弱者を「そうではない」といった新しい見方があれば良い。
- ・人口減少している場所ではいろんな機能を合わせ持つ災害時の避難所の数を項目にいれておくと可能性が広がる。
- ・「生きる力を育む教育の推進」という部分で、「夢や目標を持つ子供」とあるが、画一的に子供が夢や目標を持つことがよいというのは気持ちが悪い。対応力があつた方が深みが出る。もちろん学力があつた方が良いが、ICTで画一化されるようなイメージを持ったので、柔軟性を計れる指標があつた方が良い。

(委員)

- ・マイノリティが実はマイノリティではないという感覚にまでたどり着ければ、一番よい。
- ・避難所運営は確かに地域で課題になっているが、実は可能性を秘めているテーマでもある。

- ・夢や希望は大切だが、対応力や柔軟性もあった方がよい。

(委員)

- ・教育で知り合いの先生が、自殺率の低い地域で調査した結果があるが「自己効能が高い」ことが判明した。夢や希望がなくても「自分は何か出来る」という自己肯定感のような指標があればよい。夢や希望がない子供がいてもよいかなと思う。また、自分に自信があれば良い。

(委員)

- ・歴史文化自然があって、その上に人間の社会があって、経済がある、そんな構造になっている。先導的な取組みで、ついて来なさいよ、というのがまちにつながる構成が主であるが、「都市から」というのを入れた方が良く思う。
- ・また、観光産業は基盤になる。地域の良さを前に出して1ページのどこかに入れば良いのではないか。
- ・住みやすさは観光や滞在型の産業にもつながる。
- ・KPI をきちんと仕分けして、相乗効果をきちんと検証した方がよい。

(委員)

- ・前回の戦略では KPI が 800 くらいあったが、その反省を踏まえて、KPI を絞りたいという意図はあると思う。そう思うと県の方の意図はわからないが、ここで上がっている KPI はかなり揉まれていて、重要なものが上がっていると思う。「これを追加した方がよい」という意見については慎重になるべき。
- ・一番の問題は、5 ページのところに総論の課題のところに若い世代の流出のグラフがあるが、相当インパクトがある。特に女性の就業機会の減少が問題。ここが一番の問題だとすると、社会増対策の女性の就業率とか、流入指標、あと子ども応援社会の形成など、この指標の一つひとつを見るのではなく、連動している意識を持つことが重要だし、横断的に考えなければならない。
- ・絞らないといけないのは理由がもう一つあって、県民にシェアしなければならない。どう県民に共有するかを考えたときに、ある程度個数を絞らなければならない。あんまり細かい指標を出すよりは、中で持っておく指標と外に出す指標と両方とも分けて考えなければならない。ここに掲載されるのは外に出す指標として考えなければならないので、ある程度重要な指標として絞らなければならない。どういうふうにシェアされるのか。
- ・例えば、HP 上で毎年掲載するとか。データが取れるものは定期的に更新してグラフをつくるとか、ある程度県民に対するシェアの方法を考える。そうでないと、「私が」というのは「全員が」ということだと思うので、どういうふうにアウトカム、シェアするかを考えなくてはならない。全体の話だ。

(委員)

- ・個々ではなく、指標は連動するものだ。
- ・指標を増やすのは慎重になるべき。
- ・県民にどのようなかたちでシェアするかが重要だというお話だった。

(委員)

- ・今のお話を聞いて、結婚のきっかけづくり、のところで婚姻件数は意味がないと思った。件数だけ見ても、良い結果なのかどうかはわからない。人口が減っているなかでは、婚姻率の方が良いと思う。

(委員)

- ・確かにそれは割合の方がよい。

(事務局)

- ・定性指標は今回から導入した。国からそういった指導があったことと、定性指標を導入することで、細かい指標をたくさんいれなくても良いのではないかという意図だ。

(委員)

- ・企業の立地数 710 件は新しく立地があった数なのか。

(事務局)

- ・累計となっている。

(委員)

- ・企業誘致型の施策は従来型が一般的となっている。書く順番について、企業創業の支援については一番上に持ってきて欲しい。誘致した企業が撤退するのは各地域の問題だ。
- ・事業承継、第二創業については企業が廃業せずに創立し続ける数をどこかで入れて頂きたい。従来からある地域の企業や産業をいかに存続させていくか。基盤のある産業の振興、をどこかで入れて欲しい。

(委員)

- ・地域の企業が続けていける、という視点が大切という話だった。
- ・他に意見はないか。

(委員)

- ・全部繋がっていると思う。「結婚から子育てまでの」と言った時に、きっかけづくりも重要だが、生活の基盤はどうなのか。今のような形で切り離して書くのか。共通するところは共通する、と書くのか。連携が見えるロジックモデルの樹形図的なものがあると良いのかなと思う。

(委員)

- ・知らなきゃ幸せ、というところはあると思う。個別に数値化して、「で、どうなのか」というところは重要。例えば、「健康に生きていたら幸せで、旅行にも行けるし、内需も増える」等の連携性を示すのか。それとも「何を目指すか」を先

に示してからそのための個別目標、とするのか。

(委員)

- ・「輝く」実態とは何か。いずれにしろ、単独の指標が上がることだけが意義のあることでは無いということ。もっと各指標が連携していったら総体として県民一人ひとりに映り込む。

(委員)

- ・一点抜けていたかと思うが、分野別検討会で意見があった、地域のローカル経済の循環といったニュアンスが抜けている。KPIの表はこれで良いが、外からの交流とか、外からの稼ぎとか、それで経済循環がぐるぐる回るようなポンチ絵があってからこういった話があれば、腑に落ちる。連携とか横断性がわかるような見取り図があると良い。

(委員)

- ・他に意見はないか。
- ・地域組織の衰退の実態を目の当たりにして、地域自治が成り立たないところも出てきていて、地域組織の再編を検討する必要があるかと思う。それに関連するテーマや指標は必要だろう。
- ・振り返って、全体の話として既にある企業の継続が大切。
- ・社会増対策については多様な人材の項目で男性の働き方を入れた方が良いということ。
- ・また女性の就業に関しては、女性と一括りではなく分類をわけた方が良い。
- ・防災の中では、防災委員の女性数を指標にした方が良いのではないか。
- ・多様な働き方に「第一線で女性が働き続ける」というニュアンスが含まれた方が良い。
- ・外国人の人材については非常にタイプが多い。フランスだったら納税という指標がある。採用から定着までを考える必要がある。
- ・自己効能感という考え方がある。
- ・男性の育児参加の指標を考えた方が良い。
- ・婚姻数は件数ではなく割合で、というお話もありました。
- ・自然増対策、健康長寿では働く高齢者の話もあった。
- ・全体としては、KPIの追加は慎重になるべき。どういう絞り込みをするのか。ポイントは若い世代の流出。ここに示されている指標は関連性を持って示すべき。県民に示すときにどのように示すかを考えるべき。
- ・産業も含んで記載すべきという指摘だった。
- ・県民の皆さんの心に響く戦略が出来ればと考えている。

(事務局)

- ・広報の話だが、学生や子供たちにわかってもらう冊子を考えている。先生やゼミ生に入って頂いて、わかりやすい冊子をつくれないうか、また小学校の子供でも分かる冊子をつくって我々が先生となって教育できないか、そんなことも検討して

いる。

- 今後のスケジュールを参考資料としてつけている。現地調査や関係者ヒアリングについて皆様にもご協力頂きたい。